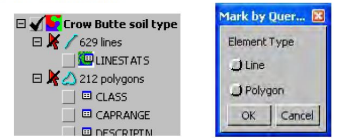
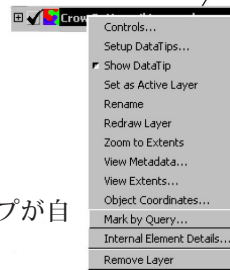


対話型クエリビルダーを使う

オブジェクトレベルや要素レベルでのマウスの右ボタンメニュー (RMBM) から、対話型クエリビルダーを開くことができます。クエリビルダーのインターフェースについては、テクニカルガイド「空間表示：対話型クエリビルダー (Spatial Display: Interactive Query Builder)」をご覧ください。

オブジェクトレベルの右クリックメニューから
[クエリによる選択] を選ぶ

オブジェクトレベルで右クリック
すると表示されるメニュー



複数の要素タイプにユーザ定義または標準の統計テーブルがある場合、[クエリによる選択] で使用する要素タイプを選択するよう促されます。

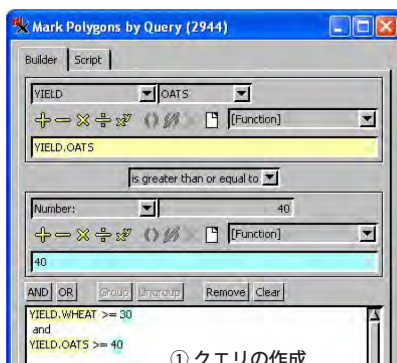
ラインのデータベースをオブジェクトレベルの右クリックメニューから自動的に選択します。

オブジェクトレベルでの [クエリによる選択 (Mark by Query)] では、

- レイヤを拓げる必要がありません
- 属性を持つ要素タイプが 1 つしかない場合はその要素タイプが自動的に選択されます
- 属性を持つ要素タイプが 1 つでない場合は要素タイプの選択を促されます

要素レベルでの [クエリによる選択] では、

- その要素タイプのデータベースが使用されます



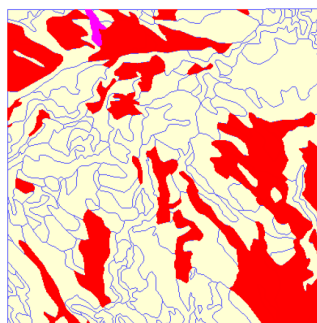
① クエリの作成

クエリの評価や保存、再利用

表示処理において自分のスクリプトの作成や適用を行って、処理結果に満足したらスクリプトを保存します。スクリプトは対話型クエリビルダーが使えない他の処理でも使用できます。

- クエリの作成と評価
- クエリはテキストファイル (*.qry) や RVC オブジェクトとして保存できます
- 他の選択処理においてクエリを開いて適用できます

参照レイヤを追加するためのレイヤマネージャを持つ処理では対話型クエリビルダーが利用できます。このトピックに関連する例や詳細については、テクニカルガイド「システム：クエリビルダーとレイヤマネージャ (System: Query Builder with Layer Manager)」をご覧ください。

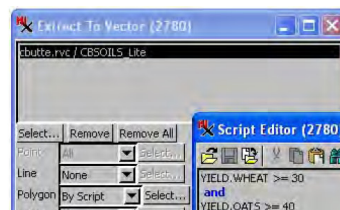
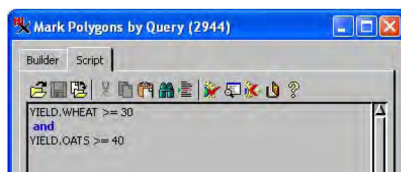


② クエリの適用 (選択されたポリゴンと強調表示されたレコード)

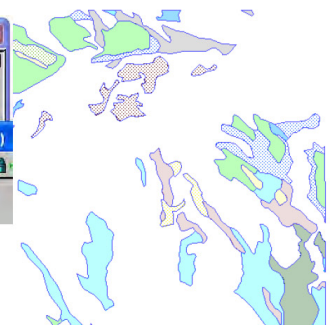
SYMBOL	WHEAT	OATS	HAYDRY	HAYWET
Bg	39	46	2.2	5.9
BgB	37	43	2.1	5.3
BgD	34	36	2.0	5.0
BgF	0	0	0.0	0.0
BnB	26	31	1.5	4.3
BnD	23	25	1.5	3.8
BoD	0	0	0.0	0.0
DuB	40	46	2.5	5.4
EpF	0	0	0.0	0.0
GbB	32	40	2.1	4.8
GpB	28	37	2.0	4.4

要素の選択をスクリプトによって実行したい場合、保存したクエリを SML スクリプトに挿入することもできます。<クエリによる選択>ウィンドウからクエリの一部または全てをコピーして、<SML の編集>ウィンドウのスクリプトにペーストします。

- ③ クエリの処理結果に満足できた場合は、[スクリプト] タブに切り替えて [別名保存 (Save as)] を選びます。



- ④ [ベクタへの抜き出し (Extract to Vector)] などの他の処理で、保存したクエリを開きます。



抜き出した結果